季刊 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第5号

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

2006年 夏

吉田遺跡の新鮮とれたて情報！

この夏、吉田キャンパス内の2ヶ所で遺跡の発掘調査を行いました

山口市に所在する吉田キャンパスは、旧石器時代から江戸時代までの全時代の遺構や遺物が発見される複合遺跡、「吉田遺跡」内に立地しています。この夏、山口大学埋蔵文化財資料館は、その吉田キャンパスにて、2件の発掘調査を行いました。ここでは、その発掘調査で得られた最新の成果を紹介いたします。

1. 農学部附属家畜病院改修工事に伴う発掘調査

古代「官衙」の存在が推定される地域

農学部附属家畜病院は、吉田キャンパスの南東端部に位置します。当館のこれまでの調査により、その周辺地では古代（奈良～平安時代）の掘立柱建物跡や、「官」という文字が書かれた墨書土器、円面硯、製塩土器、帯飾りなど、「官衙（かんが＝古代の役所）」の存在を強く示唆する遺構や遺物が確認されているため、吉田遺跡内でも特に埋蔵文化財の保護に注意を払わなくてはならない地点と言えます。

検出された巨大な落ち込み（北東から）

巨大な落ち込みを確認！

発掘調査は、当然のことながら上層から下層に向かって掘り進めていきます。今回の調査では、現地表下約1mの地点で、東から西に向かって降下する巨大な落ち込みが確認されました。調査区の西端部では深さ約1mを測ります。落ち込みに堆積している土を丁寧に掘り下げていくと、最下層からは9世紀から10世紀にかけての土器が出土し、最上層からは少数ですが鎌倉時代から室町時代の土器が出土しました。

おそらくこの落ち込みは、調査区南方から北に向かってのびる谷筋の東端部であり、長い時間をかけて徐々に埋まっていったものと考えられます。

調査区西端部の落ち込み堆積土掘削状況（北から）

柱が出てきた！

さらに下層へと掘削を進めていくと、水分が非常に多くヘドロ状で粘りけのある堆積層が確認されました。この堆積層の上面では遺構は検出されませんでしたが、この層を徐々に掘り下げていくと…なんと、3ヶ所で直立した丸太状の木材が顔をのぞかせたのです。「もしかして柱？」「いや、柱穴の掘方なんてなかったよ…」しばし現場は混乱。この木材が埋没していた堆積層の中からは、須恵器を中心として千点にも及ぶ多量の土器類（※現在資料調査中ですが、9世紀以降の土器は混ざっていないようです）とともに、多くの自然木や炭化木、人的な加工が加えられた板材や角材などが出土し、その土質からしても古代の生活地盤層とは考えることができない状況でした。

その後慎重に掘り下げていくと、黄色を帯びた地山面が確認できました。土の上面を丁寧に削りながら精査してみると…続々と柱穴跡が出現！当初発見されていた3本の丸太状木材は、やはり柱であることが確認されたのです。

確認された柱穴跡群（北から）

確認された柱穴跡群の配置を見ると、調査区の西側には柱の間隔が約1.8mで長軸を南北方向に向ける大型掘立柱建物跡（柱が残っていた建物跡）が、その東側には柱の間隔が約1.5mで長軸を東西方向に向ける小型の掘立柱建物跡が復元されます。また、大型掘立柱建物跡の内側にも複数の柱穴跡が確認されることから、この掘立柱建物が建築される以前にも同所に小型の建物が建っていたことが推測されます。

調査で確認された土層から推測すると、2棟の建物は土石流のような自然災害によって廃絶したものと思われます。その後、水分の多く含まれる土中に埋没していたことが幸いし、柱材自体が残ったのでしょう。古代の建物跡の確認と柱材自体の出土という大きな成果を得た調査となりました。（横山成己）

出土した柱（北西から）

教育総合研究センター改修工事に伴う発掘調査

調査の経緯

埋蔵文化財資料館では、教育総合研究センター（共通教育棟）改修工事に伴い、平成18年3月27日から4月28日まで予備発掘調査を行い、引き続き6月12日から8月8日まで本発掘調査を行いました。以下で、発掘調査の成果についてご紹介します。

予備発掘調査

吉田キャンパスのほぼ中央に位置する教育総合研究センターの建設時は、吉田キャンパスが遺跡であることが十分認識されていなかったため、発掘調査は行われていません。しかし、昨年度行われた本館西側の改修に伴う予備発掘調査で、弥生～古墳時代の遺物包含層やピットを検出しており、今回の工事範囲においても埋蔵文化財の分布が予想されました。そこで、予備発掘調査では、改修が予定されている同センター本館東側及び、講義棟に10ヶ所の調査区を設定して行いました。

発掘調査の結果、本館北側のA～C調査区では、ほとんど撹乱されていたものの、一部で弥生時代～古墳時代中期の遺物包含層、河川を検出し、大量の遺物が出土しました。また、本館南側のD～F調査区では、弥生時代～古墳時代中期の遺物包含層、河川、ピットが確認され、大量の遺物が出土しました。講義棟周辺では、講義棟の中庭に設定したG調査区で弥生時代の溝状遺構を検出したほかは、顕著な遺構・遺物は確認されませんでした。この調査結果に基づき、本館南側について本発掘調査を行うことになりました。

本発掘調査

本館南側について発掘調査を行ったところ、調査区全体で予想以上の撹乱が認められました。しかし、調査区東～中央部では、一部で包含層とピット若干を検出しました。また、調査区西部では古墳時代の河川を検出し、さらに同河川の下から縄文時代晩期の河川を検出しました。出土遺物には、縄文土器、弥生土器、土師器、石器などがあります。

以上のようにご紹介した今回の予備発掘調査・本発掘調査で得られた成果は、吉田構内の歴史環境を復元する上で貴重なデータとなります。特に、縄文時代晩期の河川跡は今回の調査区から約200m東に位置する連合獣医学科棟敷地、約80m南に位置するメディア基盤センター棟敷地で検出されており、関連が注目されます。

（田畑直彦）

D調査区遺物出土状況

G調査区遺物出土状況

縄文時代河川掘削状況

縄文時代河川出土土器

埋蔵文化財のお仕事 vol.5

このコーナーでは、多岐にわたる埋蔵文化財の仕事を紹介します。埋蔵文化財の仕事では土を掘る体力も必要ですが、実は正確さ・緻密さが非常に重要で、根気のいる作業が多いのです。今回紹介する埋蔵文化財のお仕事は…

遺物実測

実測とは、遺物を観察して形状を図面化することです。大きさや色・文様など細かな情報を図に表現します。

～使用するもの～

定規

三角定規

真弧

キャリパー

方眼紙

ドラフティングテープ

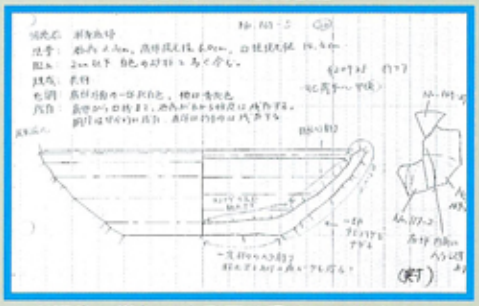
鉛筆

～実測の方法～

1. 土器を水平な実測台の上に置き、土器の中心線を決めます。
2. 中心線を正面にして設置します。方眼紙に中心線を引き、その線の右側に土器の断面を描きます。三角定規やキャリパー等を使って、高さや厚さなどを正確に表現します。
3. 中心線の左側に外郭ラインや外面の状況（文様や手法痕跡等）を描きます。真弧を使うとカーブのラインが簡単にとれます。
4. 図を描き終わったら、焼成具合（よく焼けているか）や色調・胎土（どんな粘土を使っているか）等、詳細な情報を書き込んでいきます。日付と名前を書いたら完成です。

（植木美佳）

完成した実測図



※通常、遺物の実測図は原寸大で描きます。上の図は縮小して掲載したものです。

発掘調査で使う測量機器 vol.1

レベル

発掘調査においては、正確な標高値が必要になりますが、その際使われるのがレベルです。地面に水平に設置して、スタッフの数値を読みます。この作業には、レベルとスタッフで二人が必要となります。

使用例

地点1に設置したレベルから、基準点Aにたてたスタッフの値を読む。
次に、そのまま地点1から地点Bのスタッフの値を読む。
仮にAが80cm、Bが100cmだった場合、BはAより20cm低い事になる。

地点2にレベルを移動し地点B、Cの値を読む。
Bが150cm、Cが200cmだったなら、CはBより50cm低い。

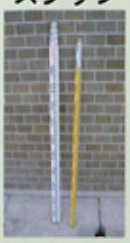
以上のことからCはAより70cm低いことわかる。
基準点Aが標高10mだったとすると、地点Cは9.3mとなる。

使用例ではレベルを一度しか動かしていませんが、近くに基準点がない場合は何度も移動させ何キロも移動することがあります。（有本浩紀）

レベル

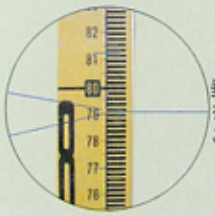
水平に立てます。工事現場でよく見かけませんか？

スタッフ

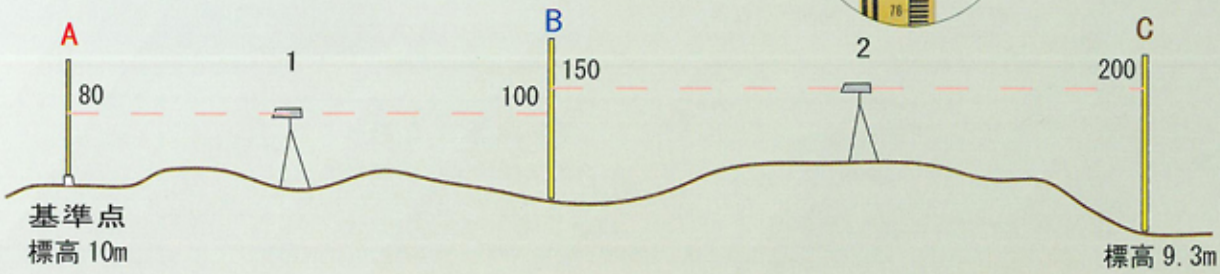


3mや5mの長さのものがよく使われます。

レベルを覗く



垂直に立てたスタッフを見ます。
この場合79.2cmです。



山口県内の博物館紹介 vol.5

梅光学院大学博物館

梅光学院大学博物館は、山口県の西端である下関市に位置しています。博物館が所在する東駅キャンパス周辺は、市立図書館や市の運動公園などの施設が密集しており、下関市の文教地区となっています。

大学博物館は、「博物館相当施設」として山口県から指定を受けており、大学収蔵資料の保存・展示活動とともに、博物館の専門職員である「学芸員」資格の取得を目的とする博物館学課程の実習の場としても活用されています。入館者は、学内外から年間約 1300 人を数えるそうです。

博物館は大学図書館と併設されています。展示室は、山口県域・関門地域の歴史と文化を紹介する「郷土コーナー」、展示者（大学教職員）の専門分野や興味対象を発信する「学習コーナー」、梅光学院史を様々な視点から紹介する「学院史コーナー」、館蔵資料をテーマに沿って紹介する「常設・企画コーナー」に分けられています。佐藤睦子学芸員に館の特色や展示内容などについてお話をうかがいました。

（質問）梅光学院大学博物館の特色を教えてください。

佐藤「本館は人文系博物館であり、収蔵されている資料も文学・歴史・民俗・考古など多岐にわたります。展示を行う上での工夫としては、4 つの展示コーナーの開催期間をずらすことで、何度も足を運んでくださる来館者に常に新しい展示を見ていただけるような試みを行っています。」

（質問）大学教職員が自ら展示を企画する「学習コーナー」は面白い試みですね。

佐藤「大学には様々な学識や経験を持つ教職員が存在します。教職員が学生に見せたいものを最大限にアピールすることにより、学生が「モノ」を読み解く目を養うきっかけになればと考えています。また、当館は図書館と併設されているため、展示物をさらに調べたい来館者は図書館利用の手続きを行えばすぐに文献などを調べられるという利点があります。」

展示内容を説明していただいた佐藤学芸員

博物館では現在、学習コーナーにおいて『いつか見た phantasmagoria ー浪速少年の幻想玉手箱展ー』が、郷土コーナーでは『関門民芸「ふく笛」を読む（2）ー地域をつなぐ『ふく笛』同人誌の人々ー』が開催されています。個性あふれる展示とともに、「モノ」を見る視点について深く考えさせてくれる、魅力満載の博物館です。是非一度足をお運び下さい！

（横山成己）

お問い合わせ先
梅光学院大学博物館
〒750-8511 下関市向洋町 1-1-1
Tel 0832-27-1070
ホームページ
http://baiko.ac.jp/university/museum.htm

2006 年 春 埋蔵文化財資料館の活動

4 月
4/3（月）
平成 18 年度常設展『山口大学の遺跡～吉田遺跡展～』オープン。
※開催期間：平成 18 年 9 月 29 日（金）まで。
第 2 回大学情報機構埋蔵文化財特別展
『山口県遺跡めぐりシリーズ 1 ジーコンボ古墳群』（於：山口大学総合図書館）オープン。
※開催期間：平成 18 年 4 月 3 日（月）～平成 18 年 6 月 30 日（金）
4/21（金）小串構内医学部南門（山口大学医学部構内遺跡）で立会調査を実施。
3/27（月）～ 4/28（金）吉田構内共通教育棟（吉田遺跡）で予備発掘調査を実施。
4/24（月）～ 4/28（金）
吉田構内農学部附属家畜病院（吉田遺跡）で予備発掘調査を実施。

5 月
5/11（木）吉田構内共通教育棟（吉田遺跡）で立会調査を実施。
5/18（木）山口県博物館協会に出席。
5/27（土）
公開授業『古代人の知恵に挑戦！ー古代のお米をつくってみようー』第 1 回授業開催。
5/29（月）～ 6/5（月）山口市立平川小学校 6 年生による資料館集団見学。
5/30（火）吉田構内第 1 学生食堂（吉田遺跡）で立会調査を実施。

6 月
6/5（月）小串構内モニュメント設置工事（山口大学医学部構内遺跡）の立会調査を実施。
6/12（月）～
吉田構内共通教育棟（吉田遺跡）で本発掘調査を開始。
吉田構内農学部附属家畜病院（吉田遺跡）で本発掘調査を開始。
6/22（木）～ 6/23（金）国立大学博物館等協議会に出席。
6/24（土）
公開授業『古代人の知恵に挑戦！ー古代のお米をつくってみようー』第 2 回授業開催。

公開授業での田植えの模様

平川小学校 6 年生の集団見学

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第 5 号
『てらこや埋文』2006 夏

編集・発行
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
Tel/Fax 083-933-5035
E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2006. 8. 31.